

## 2. 首都直下地震等の被害想定

わが地区の災害時の危険性を「鳥の目」で把握するために、最新の被害想定等のデータや地図を学習し、災害時の被害をイメージしましょう。

### (1) 東京都の被害想定

#### ◎東京湾北部地震による東京都の被害想定 (平成24年4月18日、東京都公表)

○首都直下地震、東京湾北部地震 (M7.3)、  
冬の夕方 18 時・風速 8m/秒

人的被害	原因別	死者	約 9,700	人
		揺れ	約 5,600	人
		火災	約 4,100	人
	負傷者 (うち重傷者)		約 147,600 (約 21,900)	人
		原因別	揺れ	約 129,900
	火災	約 17,700	人	
物的被害	原因別	建物被害	約 304,300	棟
		揺れ	約 116,200	棟
		火災	約 188,100	棟
避難者の発生(ピーク:1日後)		約 339 万	人	
帰宅困難者		約 517 万	人	

#### ◎東京湾北部地震による板橋区の被害想定 (平成24年4月18日、東京都公表)

○首都直下地震、東京湾北部地震 (M7.3)、  
冬の夕方 18 時・風速 8m/秒

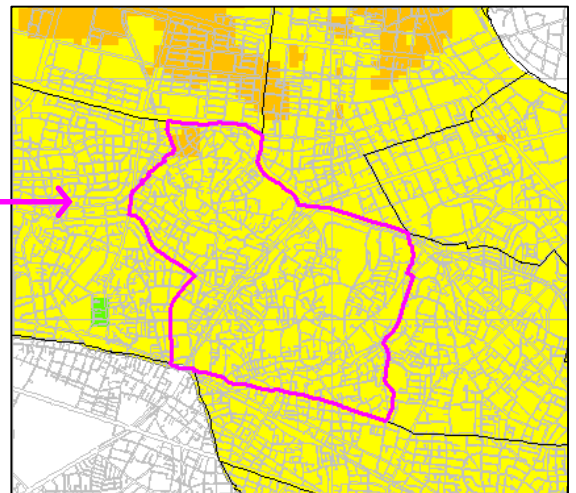
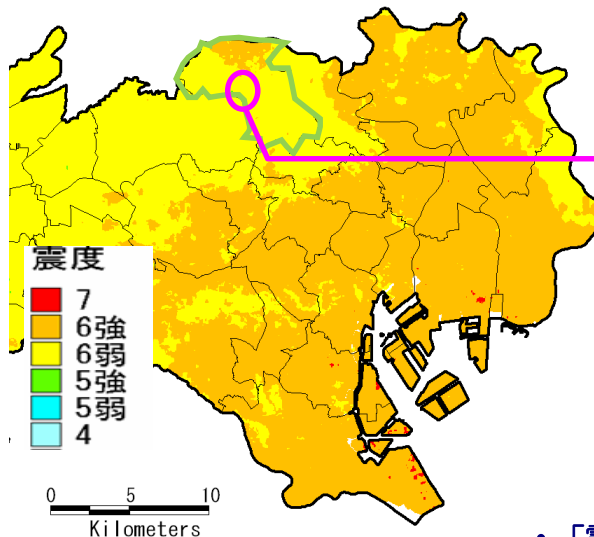
- 死者：81 人(0.02%)
- 負傷者：2,657 人(0.5%)
- 建物全壊：1,656 棟(1.8%)
- 建物焼失：747 棟(0.8%)
- 避難者：71,832 人(13.4%)
- 帰宅困難者：104,123 人(22.81%)

(注) 比率は、死者・負傷者・避難は夜間人口比で、  
帰宅困難者は昼間人口比で算出。

(注) 火災は冬の 18 時・風速 8m/秒の想定

出典：H24 東京都防災会議 首都直下地震等による東京  
の被害想定報告書

### ①想定震度分布

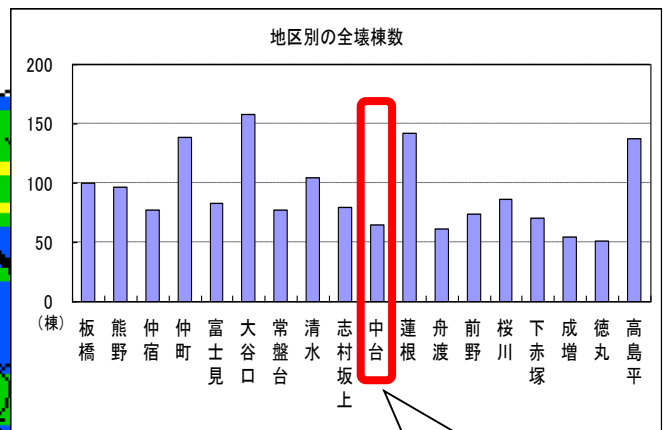
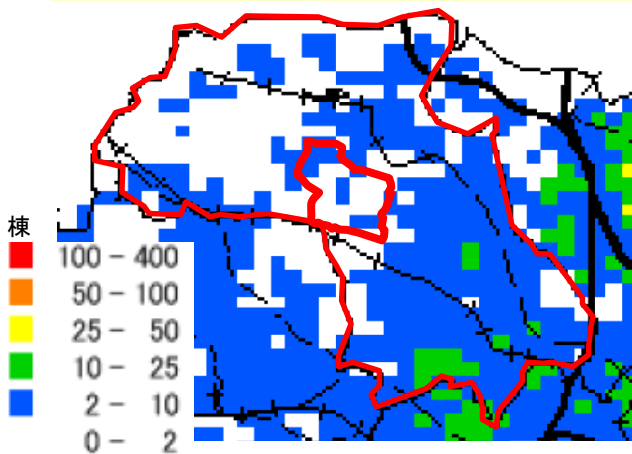


#### ・「震度6弱」とは？

- ・東京湾北部地震 (M7.3)の想定。
- ・板橋区は、ほとんどの範囲で震度 6 弱、一部、北部に震度 6 強が想定されている。
- ・中台地区は、ほぼ震度 6 弱となっている。

人の体感	立っていることが困難になる。
屋内の状況	固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
屋外の状況	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。

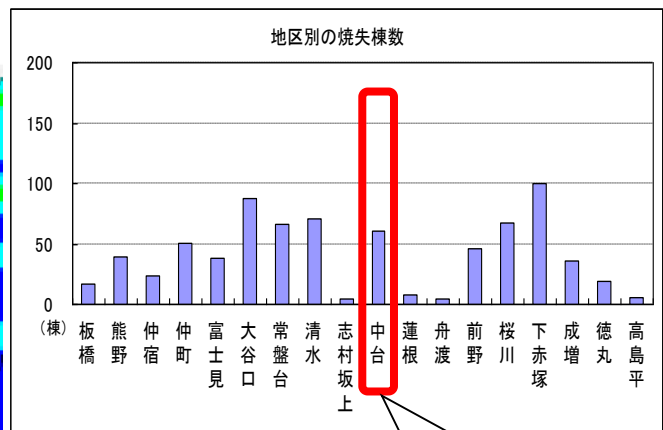
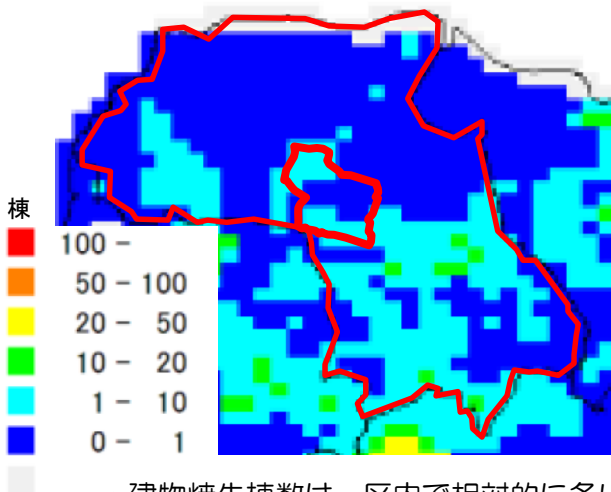
## ②木造全壊建物棟数の分布（ゆれ）



・木造建物全壊棟数は、区内で相対的に少ない。

65 棟（板橋区内 15 位）

## ③焼失棟数分布（火災）（冬 18 時・風速 8m/秒）



・建物焼失棟数は、区内で相対的に多い。

61 棟（板橋区内 6 位）

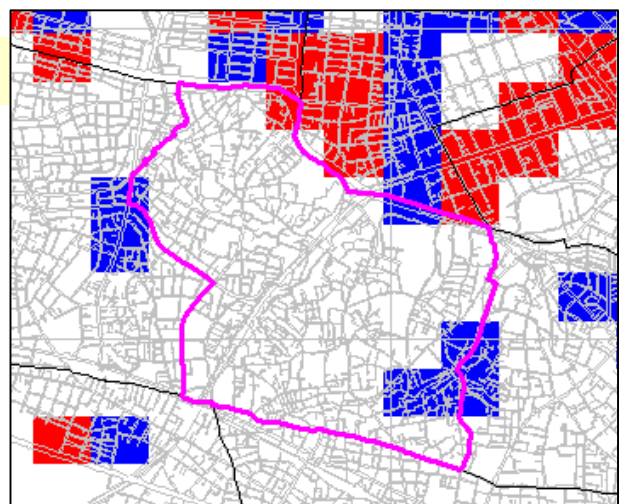
## (2) 東京都の液状化予測

### 液状化危険度分布

- ・地区内は「可能性なし」が多く、液状化の可能性は低い。
- ・北側隣接地域（荒川沿い）は液状化の可能性が高い。

液状化危険度

- 可能性高い
- 可能性低い
- 可能性なし



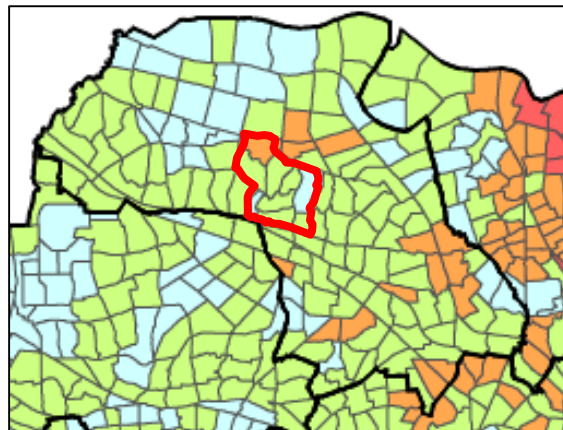
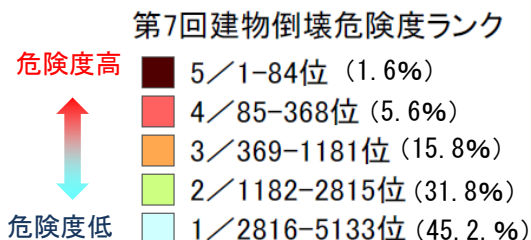
### (3) 地震に関する地域危険度

出典:H25 東京都 地震に関する地域危険度測定調査報告書

町丁目別の地域危険度測定調査を実施し、5,133 丁目を相対的に5段階評価したもの

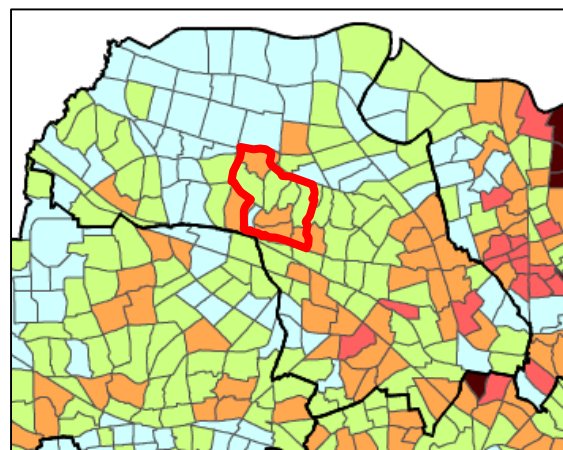
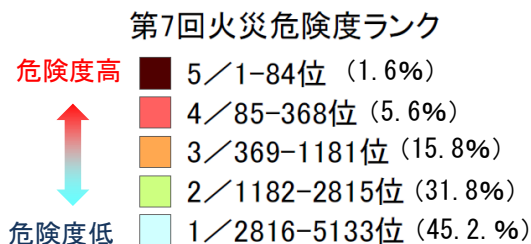
#### ①建物倒壊危険度

- 北側に建物倒壊危険度の高い地域がある。



#### ②火災危険度

- 火災危険度の高い地域がある。



### (4) 板橋区洪水ハザードマップ

(H17. 7 作成)

#### 新河岸川・石神井川版

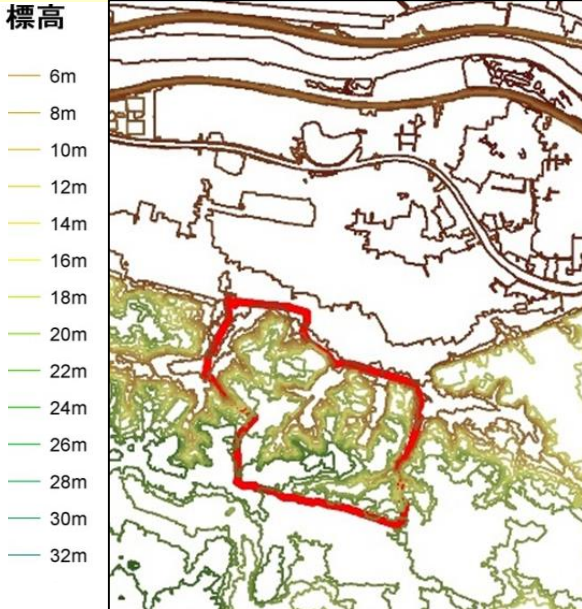
- 平成12年9月の東海豪雨と同様の降雨があった場合の浸水状況を想定。
- 北東部と中央部で浸水が想定されている。



### 3. 中台地区の地域特性

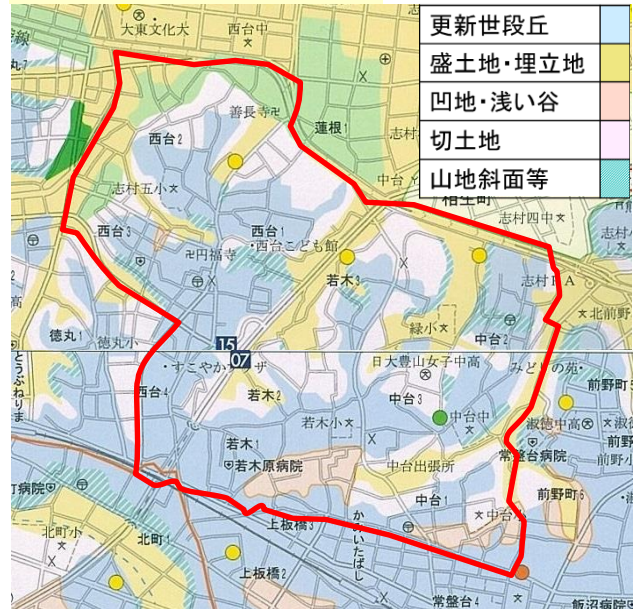
地域特性（地盤、土地利用、建物属性、人口特性データ等）から、わが地区の災害時の被害をイメージしましょう。

#### ① 地形



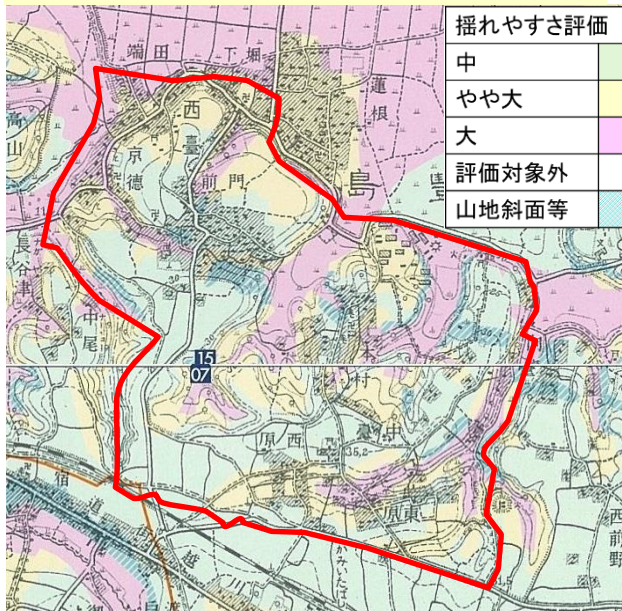
- 中台地区の標高 6m～34m。

#### ② 土地条件図



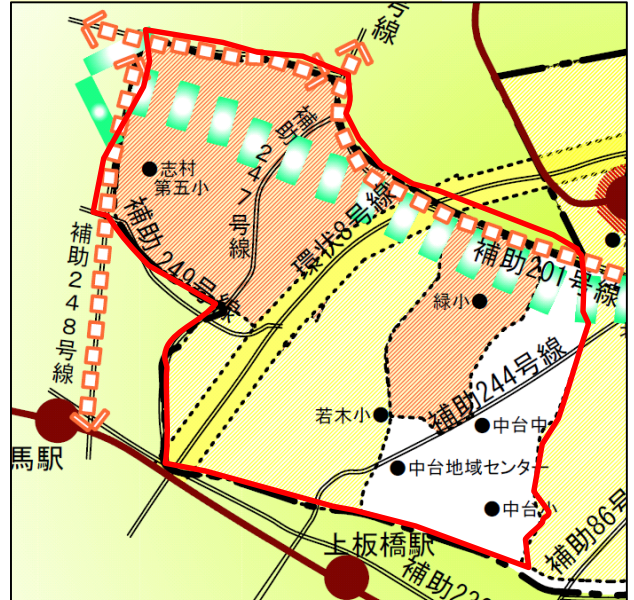
- 北側の首都高に沿って谷底低地が見られ、盛土・埋立地とされる。
- 段丘の間に切土、斜面が見られる。

#### ③ 旧版地図・地盤の揺れやすさ評価



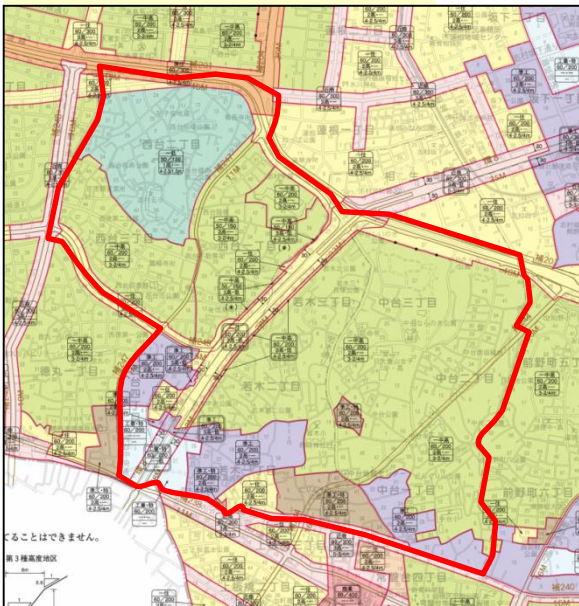
- 更新世段丘の揺れやすさが「中」であるが、北側の低地は揺れが大きく、浅い谷は「やや大」である。

#### ④ 土地利用-都市基盤



- 鉄道（東武東上線、都営三田線）、幹線道路（首都高速道路、環状8号線、不動通り等）の利便性が良い。

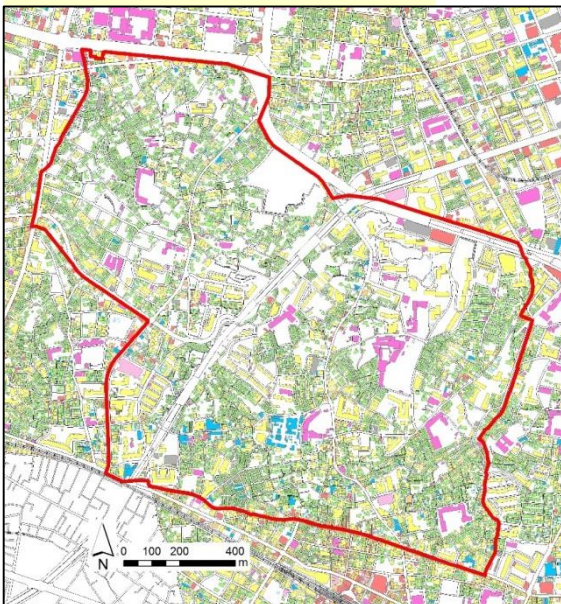
### ⑤土地利用-用途地域



一低	第一種低層住居専用地域	近商	近隣商業地域
一中高	第一種中高層住居専用地域	準工・特	準工業地域(第二種特別工業地区)
一住	第一種住居地域	準工	準工業地域
準住	準住居地域	工業・特	工業地域(第一種特別工業地区)

- ほとんどが、住居系の用途地域。
- 南側に工業系の用途地域。

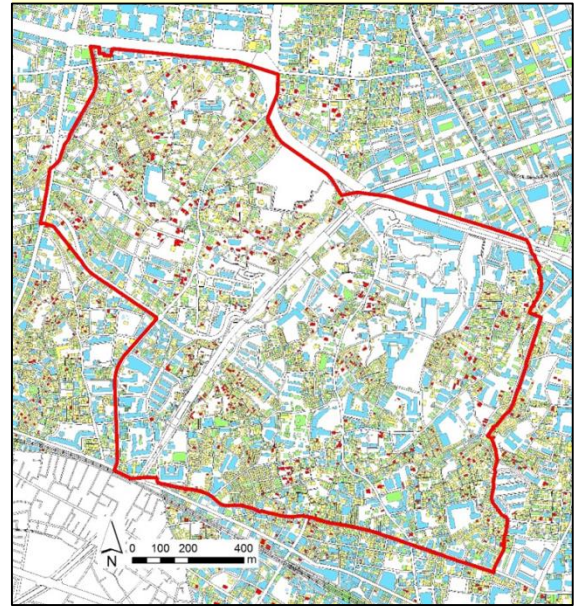
### ⑦建物属性-建物用途



公共・公益施設	独立住宅	専用工場
商業・業務建物	集合住宅	住居併用工場
住商併用建物	倉庫運輸関係施設	

- 棟数割合、建築面積割合ともに独立住宅が最も多く、棟数割合では、独立住宅と集合住宅の合計で約 85% を占める。

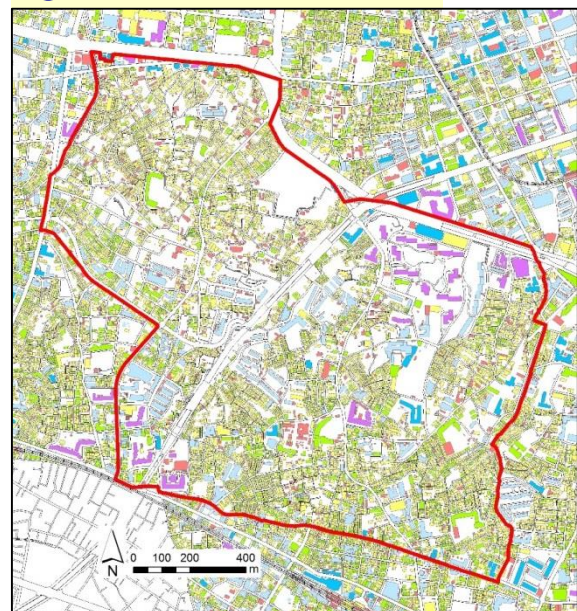
### ⑥建物属性-建物構造



耐火構造	防火造
準耐火造	木造

- 木造・防火造が、棟数割合で約 60% を占める。

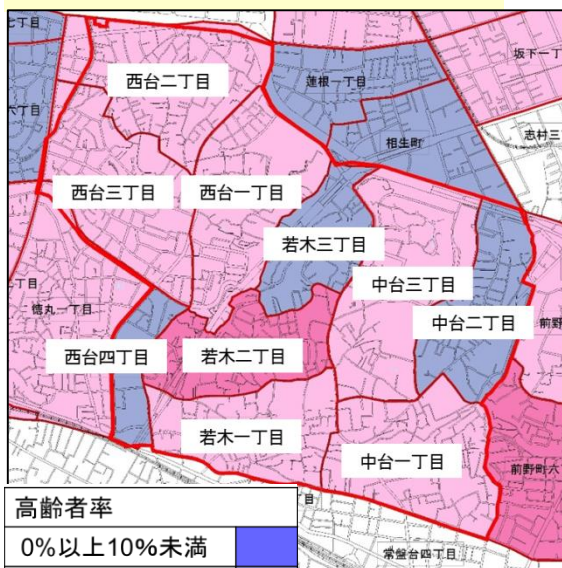
### ⑧建物属性-建物階数



1階	4階～6階
2階	7階～9階
3階	10階～25階

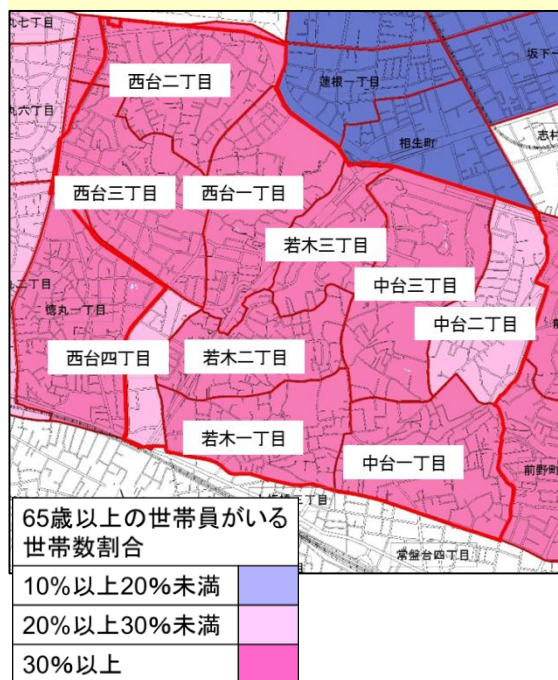
- 2階建ての割合が約 60% を占める。
- 4階建て以上の割合は 5% 未満であり、低層建物が広がる。

### ⑨人口属性-高齢者率 (町丁目別)



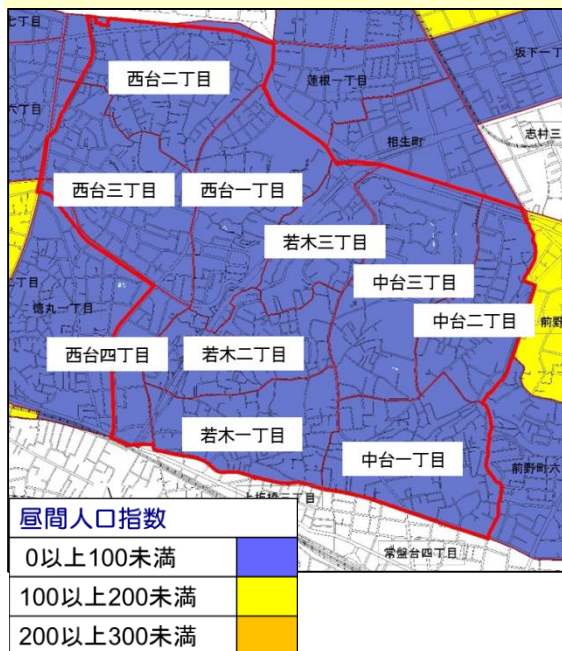
- 高齢者率（65歳以上）は、若木二丁目が最も高く（30%超）、隣接する西台四丁目 が14%と最も低い。

### ⑩人口属性-高齢者がいる世帯割合 (町丁目別)



- 65歳以上を含む世帯の割合は、全体的に区平均（29%）より高く、特に中台三丁目と若木二丁目 が40%以上と高い。

### ⑪人口属性-昼間人口指数 (町丁目別)



- 昼間人口指数（夜間人口を100とした場合の昼間人口）は、区平均（92）より全体に低く、若木三丁目 が40と最も低い。

#### 地域の特徴からみた被害想定

- 本地区は、標高が6～34mと高低差が大きく、崖崩れなど地盤の被害が考えられる。また、坂道が多く、地区住民の安全な避難に困難を伴うことが考えられる。
- 環状8号線が地区を縦断しており、膨大な帰宅困難者と自動車の大渋滞が想定される。
- 木造密集市街地が分布しているため、建物倒壊、火災による延焼の危険性がある。
- 昼間人口は板橋区の平均よりも低く、昼間の災害対応の担い手が少ないことが懸念される。

出典一覧：①ミッドマップ東京 1/2500 地形図、②③首都大地震ゆれやすさマップ 2013 年旬報社、④板橋区都市計画マスタープラン、⑤H25.4 板橋区用途地域図、⑥～⑧H23 東京都土地利用現況調査、⑨～⑪H22 板橋区国勢調査